

ミレニアム生態系評価の概要

国際連合大学高等研究所 Katsunori Suzuki
 上席研究員 鈴木 克徳

2005年3月30日、ミレニアム生態系評価(MA)総合報告書が公表された。この報告書は、地球生態系と人類の福祉に及ぼす影響を評価した一連の報告書(右表参照)の最初のものであり、「我々の持てるものを超えた生活:自然の資産と人類の福祉」と題するMA理事会の声明とともに公表された。

MAは、生態系の変化が人間生活に及ぼす影響やこれらの変化に応じてとるべき選択肢に関する科学的な情報について、政策決定者や一般市民のニーズを満たすための国際的なプログラムであり、2001年6月に国際連合事務総長コフィ・アナンにより開始が発表され、2005年3月に完了した。特に生物多様性条約(CBD)、砂漠化対処条約(CCD)、湿地に関するラムサール条約、移動性野生動物種の保護に関する条約(CMS:ボン条約)をはじめ、民間企業や市民社会の利用者にとって必要な評価を提供する手助けをするようにデザインされた。

MAはローカル、水系、国、地域及び地球規模で行われている評価を連結したものである「マルチスケール」評価として行われた。MAで承認された17のサブグローバル評価と、これに準じる13の評価が行われた(下図参照)。

95カ国からの1,300人を超える著者が、地球規模評価を準備する4つの作業部会に参加しており、数百人がサブグローバル評価に参加した。

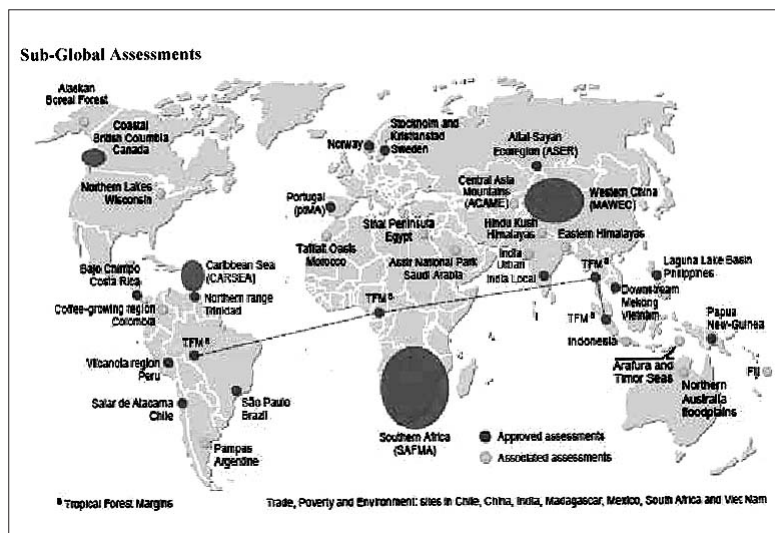
ミレニアム生態系評価報告書のスケジュール

題名	出版日
1. 生態系と人類の福祉—評価の枠組み	2003年9月
3. 我々の持てるものを超えた生活—自然の資産と人類の福祉(MA理事会声明)	2005年5月9日
4. 総合報告書(全般)	2005年5月9日
5. 生物多様性総合報告書	2005年5月9日
6. 砂漠化総合報告書	2005年6月17日
7. 商業・工業総合報告書	2005年6月17日
8. 湿地帯総合報告書	2005年6月17日
9. 健康総合報告書	2005年6月17日
10. 我々人類の地球(要約版)	2005年9月
11. 現状と傾向	2005年9月
12. シナリオ	2005年9月
13. 政策対応	2005年9月
14. マルチスケール評価	2005年9月
15. 様々な規模と認識の橋渡し—マルチスケール評価でローカルな知識と地球規模の科学とを結ぶ	2006年3年

この画期的な調査報告は、地球上の生命を支えている生態系の機能—例えば、淡水、漁獲、大気と水の制御、及び地域の気候や自然災害、疾病、害虫の制御—の約60%が劣化しているか又は非持続的に利用されていることを明らかにした。科学者は、

これからの50年以内にこの機能劣化に伴い、地球環境は著しく危険な状況に陥る可能性がある」と警告している。「もし、人類が依存している生態系の機能の多くが劣化し続ければ、貧困と飢餓の撲滅、保健の改善、環境の保護等の世界的な目標の達成に向けて進捗し続けることはできないだろう」と、MA総合報告書は述べ、現在進行しつつある生態系機能の劣化は、2000年に国連で世界の指導者が合意したミレニアム開発目標(MDG)の障害になると指摘している。

ミレニアム生態系評価に関する詳しい情報には、www.millenniumassessment.org からアクセスできる。



サブ・グローバルアセスメント地域一覧